

「同情の余地のない人と共に」
～救世軍の社会福祉を考える～

ヨハネによる福音書 4章 6～30節

みなさん、こんにちは。

ネット配信ですと、皆さんがどんな場所で、どんな状況で聞いているかわからないので少し寂しい気持ちになります。

最近、テレビの中継のようにお互いの顔を見ながら話すことができるので大変便利です。

新型コロナウイルス感染拡大に伴いネット上の会議や打ち合わせも増えました。仮想空間・ヴァーチャルな世界でも、相手のことが手に取るようにわかるという気持ちになります。

そんな中、先日、不思議な体験をしました。

お名前も著書も存じ上げている大学の先生とオンラインでミーティングを重ねていました。

そして9月に実際に救世軍の集まりに来ていただくことになりました。

その方が会場に入ってきたとき、間近に来るまで全く分からなかったのです。

お互いにそうでした。

オンラインミーティングの時には、相手の背丈や歩き方、背広を着た姿など全く分からなかったからです。

何よりその方の表情や持っている雰囲気はわかっていなかったのです。

オンラインでは何度も会っているのに、お互いを認識するのにちょっと時間がかかって「はじめまして」とあいさつを交わすといった不思議なことが起きました。

やっぱり会わないと伝わらないことがあるのだと実感しました。

一度でも会ったことある相手ならば状況は違ったかもしれません。

でも、私ははっと気づきました。

毎日顔を合わせている人であっても、わかっているつもりであっても、実際に相手の事をどこまで理解しているだろうと思うのです。

小さな例ですが、しばらく前、自宅で鉛筆やボールペンを立ててある小さな箱について妻の芳子少佐と私がすれ違っていることがわかりました。

With Those Whom We Do not Feel Compassion For
The Salvation Army's Social Welfare Ministry
John 4:6-30

It is good to be with you today.

But it's little sad not knowing where you are or how you are doing.

These days, being able to communicate online is very convenient.

We have more meetings online due to covid.

Seems like we get to know each other in virtual reality.

I recently had an interesting experience.

I had been meeting with this College professor for number of times.

Yet when he came to the Salvation Army gathering in September,
we did not recognize each other at all.

Online, we had no idea what the other person's physique would be like.

Or we didn't know the air about each other.

It took a little while for us to recognize and exchange greetings.

Some things do not communicate unless you meet in person.

Would it be different with someone I had met before?

Then I realized,

How much do I really know about the person even if I see them every day?

There was some miscommunication between my wife and I regarding a pen stand.

私は、メモを取るのに鉛筆を使うことが多く、何気なく手前の筆記用具を取るとボールペンなので、鉛筆を探し、次に使うときのために手前に立てるようにしていました。

いつかは、自分の取りやすいところに鉛筆が増えていくと信じていましたがなかなかそうなりません。

芳子少佐は、メモを取るのにボールペンを使うので、一生懸命鉛筆を奥に、ボールペンを手前に片付けていたのです。

先日は、書けなくなったボールペンの整理をされていてこの事実が発覚しました。私が、いつも使いやすいように鉛筆を手枚に置くんだけど、使いやすいところに鉛筆がないんだよね。

と言うと、それでなのね。なんで鉛筆が手前に来るのかと思っていつも奥にやっていたのに。という答えです。

30年近く一緒にいるので、大概の事はわかり合っていると思っていたのですが小さなことですれ違っていることはあるのだとつくづく思いました。

身近な人の事でも、人を知ることは難しい面があると思いました。

今、私は児童養護施設に任命を受けていますが、改めて、社会福祉について一から学ばせていただいております。

人と環境の接触面(**Interface**)を取り扱うソーシャルワークが行われている現場で働かせていただいているのです。

長く一緒に暮らす人とも、小さなすれ違いや分かり合っていないところがあります。

まして、様々な背景を抱えて来る子どもたちのことは理解できないことがたくさんあります。

ここに、イエス・キリストがおられたら、どのようにされるかと思うのです。

イエス様と一人の女性の出会いを見る時、神の子であるキリストは、現代でいうところのソーシャルワークを的確に行う偉大な方であるという側面を感じます。

I like to write with the pencil, so after use, I always put them in the front of the stand.

Hoping that it will be there the next time I need it.

My wife uses a pen, so she puts the pen in front.

I just found this out the other day.

I told her how the pencils get lost in the pen stand,

Her reply was she didn't know that I use them, so she was putting them in the back.

Though we have been together for almost 30 years, there are still things that we misunderstand.

It is not easy to get to know a person.

In the Children's Home that I serve, I am learning much about the social welfare work.

It is a hands-on social ministry that is taking place.

There is some miscommunication with people that you know well.

We fail to understand about the children from complicated background.

I do wonder what Jesus would do.

We see from Jesus' encounter with the woman by the well that he is a master at what we would call effective social work.

ヨハネによる福音書 4 章 6,7 節を見てみましょう。

6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。7 サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。

水くみの井戸は、水道のないイエス様の時代、炊事などに使う水を女性たちが汲みに来る社交の場にもなっていたでしょう。

しかし、この女性は正午ごろ水くみに来ます。

イエス様とこの女性以外に登場人物はなく、弟子たちは町に食べ物を買に行っていて、ここにはいません。

ユダヤ人と交際のなかったサマリアの女性は、イエス様が「水を飲ませてください」という事を不思議に思いました。

イエス様は、即座にこの女性の根源的なニーズを見出し、10,13,14 節の言葉を言われます。

10…「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」

13…「この水を飲む者はだれでもまた渇く。

14 しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

イエス様は、この女性が、飲んでも渇かない永遠の命に至る水を渴望しているとすぐに見立てたのです。

この女性も、15 節にあるように、…主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。と求めます。

神の子であるイエス・キリストは、この女性の背景を既に見抜いていました。この女性が抱えている苦しみの根源的な部分を知っておられたのです。

朝、多くの女性たちと共に水くみに来れない理由が明らかになります。

イエス様は、この女性に「夫をここに呼んできなさい」と言われますが、女性は「夫はいません」と答えます。

18 節で、イエス様は「あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」と言われます。

It's John 4:6-7

“Jacob’s well was there, and Jesus, tired as he was from the journey, sat down by the well. It was about noon. When a woman came to draw water, Jesus said to her, “Will you give me a drink?”

The well must have been a place of socializing for the women.

This woman comes at noon.

It is just Jesus and this woman, no others.

Jews had no association with the Samaritans, so she was puzzled by Jesus.

Jesus knew her fundamental need and says,

V10 “If you knew the gift of God and who it is that asks you for a drink, you would have asked him and he would have given you living water.”

V13 “Everyone who drinks this water will be thirsty again,

V14but whoever drinks the water I give them will never thirst. Indeed, the water I give them will become in them a spring of water welling up to eternal life.”

Jesus knew immediately how she is wanting water that would lead to eternal life.

She replies, “Sir, give me this water so that I won’t get thirsty and have to keep coming here to draw water.”

Jesus, the Son of God knew about her.

Knew about her fundamental struggle.

Why she doesn’t come to the well in the morning becomes clear.

Jesus asks for her husband, and she replies she doesn’t have one.

Jesus replies, how she is right in saying so – though she had five husbands, the man she is with is not a husband.

イエス様は、この女性と女性を取り巻く生き方、環境をすぐに読み取りました。

私たちは、イエス様のように、相手のニーズや抱えている根源的な背景をすぐに探り出し、アセスメントすることはできません。

それでも、悲しんでいる人、苦しみの中にある人と共に生きようとするとき、その人の苦しみの根源に触れようとコミュニケーションを取り、また、祈るのです。

この女性は、イエス・キリストを通して永遠の命に至る水を手にしたことで、その人生が一変します。

人目を忍んで水くみに来ていた女性は、町に行き、永遠の命に至る水を下さるイエス・キリストの存在を知らせていくのです。

あの人は、人の道から外れているというような非難を恐れる姿はありません。

私たちは、世の中にいる一人一人の根源的な求めに敏感でありたいと願います。永遠の命に至る水を与えるイエス・キリストにであってほしいと願い、祈り、行動するのです。

今日は、11月第2週、2021年は14日ですが、救世軍では「社会福祉サンデー」となっています。

先ほどの女性の話は、社会福祉部や社会福祉法人の働きに限ったことではありません。

イエス様は、的確に女性のニーズを把握し、女性は自らの生き方を主イエスに委ねました。

私たち救世軍の、小隊、連隊、本営、施設、病院、士官学校、そして全ての救世軍人の生き方に関わることなのです。

社会福祉サンデーは、社会福祉部サンデーではないのです。

救世軍の創立者ウィリアム・ブースは、最後の公開説教で次のように語りました。

「今日そうであるように、女性たちが泣く限り、私は戦う。

今日そうであるように、幼い子どもたちが飢える限り、私は戦う。

今日そうであるように、男たちが刑務所に入出入りする限り、私は戦う。

Jesus knew immediately about her context.

We cannot do that like Jesus, identifying the needs or the background.

But in trying to come along side, we try to communicate and pray for the hurting individuals.

Transformation comes to this woman when she received the water from Jesus.

She who had avoided people is now going to town and telling about Jesus.

She is not afraid of people's criticism.

We want to be sensitive to the need of each person.

We pray and act hoping that they will encounter Jesus.

Second Sunday of November is the Social Welfare Sunday in the Salvation Army.

The story of the woman is not limited to the Social Welfare Department.

Jesus understood her need, and she trusted Jesus with her life.

It involves all units of the Salvation Army's work and the lives of all Salvationists.

It is beyond Social Welfare Department.

William Booth, the founder of The Salvation Army had said,

“While women weep, as they do now, I'll fight

While little children go hungry, as they do now, I'll fight

While men go to prison, in and out, in and out, as they do now, I'll fight

酔漢が残っている限り、街頭に哀れな失われた娘がいる限り、
神の光を受けない一人の暗黒な魂でも残っている限り、私は戦う。
私はまさに最期に至るまで戦う！」

私たちひとりひとり、イエス・キリストとキリストに出会った女性の姿について
考えたいのです。

私たちが、もしこの女性に会ったならどう思ったでしょうか。

5人夫がいて、今暮らしているのは夫ではない人だということです。

最近でも子どもに熱湯をかけて死なせた親が逮捕されています。

子どもには同情 シンパシーが寄せられあますが、親の気持ちに対するシンパシー
を持つことはないかもしれません。

子どもの虐待防止センターホームページには次のように書かれています。

親を責めるだけでは問題は解決しません。

虐待をする親と子どもには周囲のあたたかい支えと適切な援助が必要
です。

虐待しているとみられて地域から敬遠されると、社会から孤立してしま
います。

そういう家族にこそ、地域のみなさんの温かい手を差し伸べてください。

親の虐待と子どもの命を絶ったことは許されることでは有りません。

しかし、それぞれの立場でものを考える必要があります。

人目を忍ばなければならない女性に対して、同情できない事情に対して私たちは、
その人の気持ちになって考えることができるでしょうか。

他人の靴を履くようなことは難しいことです。

しかし、イエス様はこの女性の持っている苦しみ、罪の姿に共感されました。

時代が変わり、革新的な情報社会となった現代にも、ウィリアム・ブースが語っ
たような人々はいつも私たちの周りにはいるのです。

While there is a drunkard left, While there is a poor lost girl upon the streets,
While there remains one dark soul without the light of God, I'll fight
-I'll fight to the very end!"

Let each of us think about this woman who encountered Jesus.

How would we react to her?

She had five husbands, and the one she is with is not.

Recently, parents were arrested for killing their child by abuse.

People have compassion for the child, but unlikely for the parents.

Child Abuse Prevention Center shares this statement.

Accusing the parents do not solve the issue.

Both parents and children need the support.

Suspicion makes them alienated from the society.

Those families need support of your community.

It doesn't excuse the abuse and killing.

But we need to think about their context.

Are we able to think for a woman who feels she must avoid people?

It is not easy to think from their perspective.

Those who William Booth mentioned about are around us today.

今を生きる私たち。キリストの視点を持って、私たちは周りの人々と関わって
けるようお祈りいたしましょう。

愛する天の父なる神様

イエス様がひとりの女性と出会いました。

その背景は、わたしたちがとても同情できるようなものではありませんでした。
しかしイエス様は罪の姿の中にある彼女の根源的な痛みを汲み取り、そこに永遠
の命をくださいました。

感謝をいたします。

わたしたち、同情の思いだけでは片づけられない多くの人たちと出会います。

しかしその人々の中にも罪を犯し、また罪に苦しみ、さまざまな思いの中で生き
ている人にあなたは救いの手を差し伸べられます。

感謝をいたします。

どうぞわたしたちもその苦しみの中にあるひとりひとりのことを思いやり、
隣に座り、また共感していくことができるものとして、あなたのわざに用いてく
ださるようお願いいたします。

今、この場で、この動画を見ながら苦しんでる方もおられるかもしれません。

どうかイエス様の愛が届くことができるようにお導きください。

わたしたちひとりひとりを強め、用いてくださるようお願いいたします。

感謝して尊きイエス・キリストの御名によって祈ります。

May we have eyes of Jesus, to engage with those around us.

Let us pray

Father in Heaven,

The woman Jesus met

Is not someone we would feel compassion for.

But Jesus understood her pain and offered eternal life.

We give you thanks.

We meet many people with different backgrounds.

Those who struggle with their sins, you reach out to them with your saving hand.

We give you thanks.

Help us to be compassionate with those people and use us for your ministry.

Someone who watches this video may be struggling now.

May the love of Jesus would reach their hearts.

Strengthen us and use us for your glory.

We pray this in Jesus' name.